



航友会 創立30周年記念号

目次

航友会会長挨拶	1
学校長挨拶	1
同窓会開催案内	1
航友会と学校の歩み	2
航友会支部活動状況	4
グループ航友会活動状況	6
航友会30周年を迎えて	7・8
(卒業生からのメッセージ)	
ホームページの紹介	8
住所変更等の連絡について	8
編集後記	8

発行 中日本航空専門学校航友会事務局 〒501-3924 岐阜県関市泊間字吉田洞1577-5 中日本航空専門学校内 ☎(0575)24-2521

航友会会長挨拶

会長 上村 信雄



航友会会員の皆様
におかれましては、
益々御健勝のことと
拝察いたします。

さて、同窓会は本年で創立30周年を迎えることとなりました。

同窓会の発足は昭和54年7月で、当時は卒業生も70名足らずでした。

現在、卒業生数は、すでに9988名を数え、会員各位の航空界をはじめとして、各種業界の第一線で御活躍されている様子を折に触れ拝見し、頼もしい限りで、創立当時を知るものにとってはまさに、隔世の感があります。

全国規模での航友会会員での、クラス、学年を中心とする「横」の絆は強く、各地で積極的に会合等もたれて

いることは、誠に心強いことでありますが、一方「縦」の絆はまだまだ希薄であることは否めません。「横」だけでなく「縦」の絆を一層強化し、社会生活

のなかで共に協力し合ってこそ、同窓会の本来の意義があると思われれます。

同窓会では、ホームページを開設しております。ぜひ一度アクセスしていただき各地区での同窓会活動への積極的な参加をお願い申し上げます。

(同窓会発足の様子はホームページ航友会たよりのバックナンバーをお読みください)

「航友会」設立30周年を記念して

校長 浅野 敏美



中日本航空専門学校、同窓会組織「航友会」の設立30周年、誠にありがとうございます。

記念として、航友会だよりの発刊に際し、中日本航空専門学校の校長として一言ご挨拶申し上げます。本校も昭和45年に我が国の航空宇宙工業界を担う技術者養成の教育機関として開校し、

昨年度までに9988名の卒業生を輩出し、来年度で創立40周年を迎えます。

本校は、学生が全国各地から入学し、卒業後は全国各地に就職する全国型の航空専門学校であり、また、航空技術は他の分野への応用範囲も広く、航空関係以外の企業からも幅広く求人を見ており、卒業生も航空宇宙業界は勿論工業界全般において活躍しています。

私は、このような組織環境においては、これから益々、この「航友会」の同窓会組織の意義が大きくなり、その働きの重要性が強くなっていくと考えます。正に「航友会」の創成期、成長期から一歩進めた発展期、進展期を迎える時期であります。

「学校の発展が卒業生の活躍に繋がります。卒業生の活躍が学校の発展に繋がります。そして、卒業生の活躍に繋がる一つの組織体が「航友会」です！」

「航友会」設立30周年、本当におめでとうございます。

中日本航空専門学校同窓会 航友会創立30周年記念式典のご案内

中日本航空専門学校同窓会航友会創立30周年記念式典を下記の通り開催いたしますので、皆さんお誘い合わせの上ご参加ください。

日時 平成21年10月11日(日)
14:00~18:00
場所 名鉄犬山ホテル
(犬山市犬山北古券107・1)「彩雲」
会費 3千円

日程 1. 創立30周年記念式典
2. 記念講演 青木 豊彦 氏
講演内容・お楽しみに！
ものづくりの町・東大阪の技術力を活かし、人工衛星「まいど一号」の開発に取り組み、二〇〇九年に打ち上げに成功。

3. 懇親会

申込 出席される方は同封いたしました葉書に必要事項を記載していただき9月30日までにご返送ください。

なお当日、学校見学会も併せて実施いたしますので希望されます方は申込をお願いたします。

A.M.10:00 中日本航空専門学校にお集まり下さい。

※バスをご利用の方はA.M.9:30名鉄新鵜沼駅集合。

問い合わせ 中日本航空専門学校 航友会 須崎まで



航友会の歩み

- 昭和54年7月 同窓会発足 同窓会発会式にて名称を「航友会」とする
- 昭和54年12月 「航友会だより」創刊号の発行
- 昭和61年6月 同窓会開催 (於本校)
- 昭和61年11月 沖繩支部発足会開催
- 昭和62年11月 同窓会開催 (於名古屋)
- 平成元年6月 同窓会開催 (於東京)
- 平成8年4月 ラグビー部グループ航友会発足
- 平成8年10月 同窓会開催 (於名古屋)
- 平成12年11月 同窓会開催 (於大阪)
- 平成15年4月 「航友会ホームページ」を開設
- 平成16年11月 同窓会開催 (於名古屋空港)
- 平成17年4月 関西支部発足会開催
- 平成19年3月 「航友会だより」16号をもって廃刊
- 平成19年11月 同窓会開催 (於東京)
- 平成20年5月 関東支部及び中部支部発足
- 平成20年9月 関東支部発足会開催
- 平成21年5月 九州支部及び野球部グループ航友会発足

中日本航空専門学校は、開校して来
年で40周年を迎えます。

これまでに9988名の卒業生を世
に送り出し、名実とも日本一の実績を
持つ航空宇宙関係の技術者養成教育機
関となりました。

航友会も発足し、今年30周年になり
ます。この間、活動が一時停滞した期
間がありました。が支部5つとグルー
プ航友会2つが出来ました。今回、航友
会30周年記念事業の一つとして「航友
会だより」特別号を発行し、航友会と
学校の歩みを紹介します。

航空整備科

開校以来、念願であった運輸大臣指
定航空従事者養成施設 (三等航空整備
士・飛行機・陸上単発機) の指定を昭
和53年5月15日に受けました。

その後、好成績を維持していること
から養成人員35名を50名に増員するこ
とが認められ、昭和56年4月に入学定
員を120名から150名に増員しました。

昭和57年の関市へのキャンパス移転
を機にヘリコプタ整備コースを増設
し、養成施設として指定を受けること
を目標に教育を開始しました。ヘリコ
プタ整備士の養成は国内では初の試み
で指定を受けるまでには多くの問題点
があったが昭和63年4月によく念
願の運輸大臣指定航空従事者養成施設
(二等航空整備士・回転翼航空機・ベ

ル式47型)の指定を受けることができ、
平成6年4月にベル式47型の限定を
ヒューズ式369型に変更し指定を受けま
した。また、平成4年2月に航空技術
コースが整備経歴認定施設に認定され
整備経歴1年が認められることになり
ました。

長年使用してきた富士重工式FA200
型飛行機が老朽化し、平成7年度から
はビーチクラフト式E33型に変更し今
日に至っています。

新整備士制度への変更

平成12年度に航空法が一部改正さ
れ、従来の一等、二等、三等航空整備
士の等級が一等、二等のみとなり、等
級ごとに航空整備士と航空運航整備士
に区分されました。

この制度改正に伴い平成13年度入学
生から二等航空整備士コース (飛行機
専攻とヘリコプタ専攻) と二等航空運
航整備士コース (飛行機専攻とヘリコ
プター専攻) の4つに再編成し、主な
る教材機を飛行機専攻はビーチクラフ
ト式E33型、ヘリコプタ専攻の二整
コースはベル式206型、二連整コースは
ヒューズ式369型とし、双発機が必要と
なりセスナ式310A型とユーロコプタ式
AS355F1型を導入し、教育を開始し
ました。

新たな指定航空従事者養成施設の指
定に向けて教員と学生が一丸となり、

平成15年3月に二等航空運航整備士
(飛行機・ピストン機及び回転翼航空
機・タービン機) の技能証明の限定を
受け翌年4月に二等航空整備士 (飛行
機・ピストン機及び回転翼航空機・ター
ビン機) の技能証明の限定を受け今日
に至っています。

一等航空運航整備士課程の新設

旧制度の中では、学校機関の指定航
空従事者養成施設に於いては、一等ク
ラスの大型機の整備士養成は、養成期
間、教育施設、教材及び教育能力の面
で不可能でしたが、平成12年、新制度
により一等航空運航整備士の資格が制
定され、その可能性が高まりました。

また、工業系の大学も学生確保のた
め、二等航空整備士の養成を行う学校
が現れ、大学との競争力を高めるため
新たな上位の整備士養成が必要となり
ました。この頃、JAL I社やANA
社のエアラインに於いても、団塊の世
代の定年退職者が増加し、短期間での
有資格者の養成が急務となっていました
。これらの情勢から学校とエアライ
ン航空会社の利害が一致して、学校機
関とエアライン航空会社の共同による
一等航空運航整備士の養成案が生ま
れ、航空局の指導の下、平成17年10月
より産学協同による一等航空運航整備
士養成制度化のための検討が開始さ
れ、3年間の養成期間のうち、2年生

までに学校にて学科試験及び基本技術の知見・技能の修得及びボーイング式767型のシステム概要を教育し、3年次にJAL I社及びANA社によるインターシップ教育を行い、資格を取得することが可能となりました。

平成19年度入学生から一等航空運航整備士コース（B767専攻）15名で教育が開始され、今年の6月から当コースの3年生がJAL I社及びANA社で教育を受け、来年の2月にテストコースによる実地試験に挑みます。

なお、二等航空運航整備士コース（ヘリコプター専攻）は一等航空運航整備士コースの新設と同時に平成20年2月に第36期生を最後に廃止となりました。

航空電子制御科

昭和57年5月の学校移転に伴って航空制御科として開設されました。

この学科は、益々高度化する航空機の電子装置に対するフィールドエンジニアを主として養成するために新設され、学科開設の準備は平井、西川の両先生を中心として行われました。

教材としてシャープ社製のパーソナルコンピュータや油圧、空圧、電気などの航空機システムトレーナー、一般的な電子機械教材が準備されました。

その後三菱電機社製のホストコンピュータを導入し、パーソナルコン

ピュータやNC工作機械をリンクさせた教育が始まり、航空業界に留まらず広い分野に卒業生が進出するバックボーンが作られました。このような経緯から、当学科の名称も「電子機械科」とされた時期もありました。またこの新設学科の設立に伴い、校章が新しくなったことも学校発展の一つの経緯ではなかったでしょうか。

当学科は当初、大手電機メーカーの航空機特機部門や工作機械メーカーにその就職実績を残しましたが、現在ではエアライン整備部門や航空機メーカーの電子部門への就職も確たるものとし、発展を続けています。

また現在では、情報化社会の更なる技術革新に対応し、マルチメディア対応の新型コンピュータを導入すると共に、B777のフライトシミュレータも導入し、FMSを核とする航空機制御に対応する技術者の養成に役立てています。

航空生産科

昭和61年4月に「航空技術科」として開設されました。この学科は、地場産業である航空機製造関連の技術者を養成するために新設されたもので、当地区の航空専門学校として必然的なものでした。

学科開設準備は木須先生を中心として行われ、教育は「設計」、「製造」、「検

査」の3つを主として構成され、教材が準備されました。

設計は当初ドラフターから始まりましたが、時代の推移からCADに変わり、その使用するソフトウェアも、オートCADから三次元のインペンターへと変遷を続けています。またCAMについても、実際に金属が切削できる装置に変わり、より実地的な教育が行われています。

製造関連教育は当学科の目玉授業でもあり、平成元年から始まったRV-4の組み立ても、現在では3機目の組み立てに入っています。また複合材の教育も、今後は炭素繊維に関する知識技能の修得の割合が増加する予定です。

検査の教育は、開設当初から教育や機材の多くの変更はありませんが、各非破壊検査項目のレベル1は必修とし、レベル2は選択制として、必ず何らかの資格取得を目指すように変更されています。

航空機製造部門が集中する中部地区にあり、更に日本国内で新たにMRJという航空機製造が始まる当地区では、益々当学科に対する期待が高まるものと考えています。

航空システム科への統合

航空電子制御科と航空生産科は、平成21年度から統合され、また3年課程

に変更されました。これは付与すべき専門教育の充実化と、各個人の希望や適性に応じてコースを選択するためです。今後はより専門性の高い知識技能を持った学生を送りだされることとなります。

エアポートサービス科

平成11年4月に開設され、学科長として末武先生が就任されました。

教育の柱は、グラントハンドリング業務とカーゴ業務とし、実技教育を行うための実習場も新たに整備されました。またタグカーやハイリフトローダー等の空港で使用される特殊車両も多数準備され、実際にこれら車両を使用して、即戦力の人材を養成する教育体制が整えられました。

また航空貨物を取り扱う上で必要な知識や資格を取得するカーゴ関連の教育では、国際航空貨物取扱士や通関士の資格取得を目指しており、年々その合格率は上がっています。平成22年度からは新たにグラントスタッフコースが設けられ、空港のカウンター業務を勉強することになります。

このように中日本航空専門学校の各学科の学生は、空港や格納庫での業務、航空機器の製造業務等、あらゆる航空分野で活躍しているのが現状となっています。



沖縄支部航友会活動について

電子制御科二期卒 通事 政章



航友会30周年おめでとう御座います。早いもので、私も学校を卒業して

25年近くなり年齢も45になります。卒業後は、沖縄に戻り、コンピュータ会社に入社し、現在では80名程のIT会社を経営しております。私が航友会沖縄支部をお手伝いする事になり、5年程ですが、これまでJTAの皆さんを中心に活動してまいりました。沖縄支部は、約300名近くの会員がおります。ただ、学校を卒業して、そのまま、県外で就職している方や人事異動で県外就業している方がおり、連絡が付くのが200名程になっています。会員は、航空関係者を中心に、公務員、看護師、営業マン、商社マン、米軍基地など、あらゆる面で活躍している方がいらっしやいます。先日、7月11日に、沖縄支部の親睦会を開催する事が出来、30名近くの卒業生が集まり、昔話に盛り上がりました。支部活動の年間行事は、4月に学校ガイダンス「先生方と一緒にOBとして高校生向けに進路相談」を実施。5月は、定例の代議委員会に参加。年1度の懇親会開催など。数多くの行事をこなす事は出来ませんが、年1度は懇親会を開催しております。

今後も横の連携を図りますので、是非とも集まりには参加して頂きたいと思っています。沖縄支部は、航空業界以外の方が多く、異業種交流的な集まりの場ですが、学校が江南にあった時の話や関の田舎に移転してからの話や学校生活での思い出の話など、尽きる事がありません。航友会も30年の節目、これからも卒業生が増えて行きますので、私たちの時代から子、孫と中日本航空専門学校を目指す方々も出て来るかと思えます。今後の沖縄支部活動も会員皆さんが楽しんで貰えるよう企画と情報発信に勤めてまいりますので、会員皆様のご健勝と今後のご活躍を祈念申し上げ、私のお祝いの言葉と豊かとさせて頂きます。有難う御座います。

関西支部航友会活動について

関西支部一同

関西支部航友活動について報告させていただきます。

関西地区に於ける空港については、皆様ご存じの通り、歴史のある大阪空港に始まり西の国際玄関である関西国際空港、国内線サポートの位置付けである神戸空港また、忘れてはいけない、八尾空港と4箇所の空港を構え多くの卒業生が、業務に従事しています。

そんな環境の中、関西支部としては、支部設立から早いもので四年が経過し、近年の大きな活動としては、整備課七期卒の徳永さんの計らいで読売テレビ訪問また、学校事務局のご尽力により学校へ行くイベント等活動をしてまいりましたが・・・

昨年末の百年に一度の大不況の煽りを関西地区も受け、関西支部の役員人事を昨年までの体制から変更を余儀なくされてしまいました。継続して三名の役員の方が引き続き引き受けて下さりまた、本年4月の人事異動にて関西支部より、整備科7期卒の永田さんにも加わって頂きパワー全開です。不肖私、整備課10期の大村も加わらせて頂き、今年一年老取る4人組にて活動



を行い来年には若い世代に引継ごうと参談しております。

今年、大阪空港地区懇親会また忘年会とイベントを仕掛け結束を固めたかと思っております。お時間ある方は是非ご参加お待ちしております。

航友会も今年で30周年あつという間の30年されど、歴史ある30年と思えます。

これも一重に学校に残られておられる先生方事務局のおかげと思っております。

これからも、支部の活性化に努めると共に事務局、各支部と連携をとり頑張っていくと思っております。

今後とも皆様関西支部をどうぞ宜しくお願い致します。

九州支部航友会活動について

羽田 満



現在、九州支部長をさせていただきます。お待ちしております。9期卒の羽田満と申します。

航友会発足30周年おめでとうございます。私も卒業して30年になりました。思い返せば30年間たくさんの方と知り合い、いろいろな事を教えていただき、本当に感謝しています。



卒業後、最初は調布飛行場にある離島便の会社に勤務しました。調布では大洋航空・公共施設地図航空・本田航空・国際航空輸送に先輩がいらつしやり、公私ともにお世話になりました。工具の貸し借りは勿論のこと、整備に関する技術的な事をたくさん教えて頂きました。プライベートでも飲み会やスキー、登山といろいろ誘っていたきました。

調布での7年間は私にとって大切な思い出です。

現在、新聞社に移り取材で各地の空港に降りた時も、先輩・後輩たくさんの中日本航専の卒業生がいて、同窓生としての繋がりがあからこそスムーズに行った仕事もありました。

以前の航友会だよりでは、本部と沖縄支部の活動の記事が主で、航友会をあまり身近に感じられませんでした。しかし、航友会の組織も沖縄・関西・九州・中部・関東と各支部が発足して皆さんの身近に感じることが出来る体制が整いつつあります。

九州支部が発足して3年目になります。まだまだ卒業生の皆さんに連絡が行き届いていませんが、九州各地にいる役員が頑張ってくれていますので徐々に会員も増えてきています。

卒業後、母校・同窓生・先輩・後輩を懐かしく想う時があると思います。その時は是非とも九州支部の同窓会に

おいで下さい。九州支部は門戸を広く広く開放してお待ちしています。温泉に浸かって美味しいお酒を飲んで色々な話が出るような支部を目指して未永く存続していきたいと思っています。

関東支部航友会活動について

村井新会長



航友会会員の皆様におかれましては、各業界でご活躍の事と思います。昨

年の9月に発足を開催した関東支部です。航友会設立30周年記念号に関東支部の設立と活動状況を報告できることに感謝申し上げます。

まず関東支部発足会ですが、平成20年9月27日に品川新高輪プリンスホテルにて上村会長・山田副会長・梶田事務局長をお迎えし、出席者総数54名で盛大に開催致しました。その中で、初代永田支部長の選出と、その他役員の選出が行われました。この関東支部発足までの長い道のりは、航友会先輩諸氏にいろいろご心配もお掛けしたと思っております。今後の活動も大所帯で小回りが利きませんが、温かく見守っていただければ幸いです。

平成21年になり、今年の支部活動を

どうしようか、などと事務局が休みを調整して集まり、わいわいやっている矢先の4月に、初代永田支部長が大阪に転勤され、さらに7月には、長澤事務局長が福岡に転勤と、一時的に役員体制がゆらぎましたが、豊富な人材が在籍する関東支部の強みを生かし、長く確実に活動できる事務局体制を現在再構築中です。よって、当初秋に計画していた今年の催し(羽田空港・格納庫見学と懇親会)も、時期をずらさざるを得ませんが、航友会30周年式典が10月に計画されているので、秋の活動は、関東支部からの典参加員を考えています。

昨年からの世界的な不況の影響で、各企業の業績が近年にない落ち込みをしています。

オイルショック・バブル崩壊を経験した世代はたくましいと思いますが、個人でこの状況に対応するには厳しい情勢です。今こそ航友会の縦と横の連携を活用し、情報交換をしてこの大不況を乗り越えましょう。

最後に、航友会の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げて、関東支部から30周年記念号の寄稿とさせていただきます。

中部支部航友会活動について

塩塚 哲哉



航友会中部支部は昨年4月に立ち上がりました。具体的な活動や催し物はこれからということですが。

航友会発足30年。私自身、江南の校舎をでて、縁があり名古屋空港にできた会社に就職、現在は中部空港に移りちようど30年を迎えました。ひじょうに遠い事のように思え、歴史を感じます。地元ということで卒業生、会員はぐんを抜いて多いものと思われれます。中部空港で働く卒業生が多いこともあり、事務局を空港内においておりますが、中部地方の各企業などで活躍している会員も多数在籍しております。30年の歴史の中では、今般程の大きな景気の低迷は初めての経験であり、航空業界にとっても特にそれは厳しいものになっていきます。在校生や卒業生のためにも、航友会中部支部が、広いネットワークを利用して、どのように貢献してゆか大きな課題です。物流の中心、技術力の中部から何らかのものが発信できればと思っております。今後の中部支部を注目と期待、そしてご支援をお願いします。



航友会30周年を迎えて

ラグビー部OB会一同

航友会創立30周年おめでとうござい
ます。

我々ラグビー部OB会も発足13年目
を迎えました。これも航友会のご支援
のおかげであり感謝申し上げます。

ラグビー部OB会の会員数が200名を
越えました。毎年現役ラグビー部の夏
合宿に合わせて数河高原にOB会を開
催させていただいております。

平成8年に開催したOB会には、30
人以上のOBが茨城県・成田・羽田地
区、東海地区・大阪地区・明石と全国
各地から集まりました。ハイランドホ
テルの別館を貸切り、OB会設立の会
を開催し、その後に「現役対OB」の
試合が盛大に数河高原平成グラウンド
(全面芝生のグラウンド)で行われた事
が、ついこの前のようなようです。また、毎
年夏合宿で恒例となったOB会主催の
現役学生とのバーベキューでは、数多
くのエピソードがあったことが思い出
されます。川崎重工業岐阜と川崎重工
明石、そして現役の学生の定期試合も
平成15年から3年ほど行われた事もあ
りました。川崎重工明石の選手の約半
数が本校OBであり、彼らが中心とな
り、岐阜まで遠征してくれ、実現しま
した。試合後の懇親会では、学生時代
の懐かしいラグビー談義に盛り上がっ

た事も思い出されます。

現役学生の支援も活発に行われてお
り、毎年秋期リーグの最終戦には、自
主的にOBが各地から、現役学生の最
終戦に詰め掛けて、叱咤激励をするの
も恒例となっております。

今後の大きな事業としまして、2年
後のラグビー部創部30周年記念式典で
あります。その際は、航友会からのご
指導・ご支援をどうぞ宜しくお願い申
し上げます。

今後、航友会が益々繁栄されます
事を祈念すると共に、ラグビー部OB
会も今以上に組織力を充実させて、航
友会のお力になれる様に努力したい次
第であります。



航友会30周年を迎えて

野球部OB会 会長 青山寛之

航友会30周年おめでとうございま
す。我々野球部は1991年に整備科
21期生を中心に廃部となっていた野球
部の活動を再開させていただき、現在
19期目を迎えることができました。当
初はグラウンドも無く、エプロンで練
習していたことが懐かしく思い出され
ます。グループ校友会の承認申請を2
年前に行い今年度の会議において正式
な会としてご承認いただきましたこと
に心よりお礼申し上げ、ここに報告さ
せて頂きます。これも毎年のように先
輩後輩という野球仲間が学校に集まり
OB戦を行い、世代を継承してきた実
績と熱意が学校並びに関係各位に伝
わった結果ではないかと思っております。
一度も途切れることなく毎年開催
できた仲間達を誇りに思います。そし
て休日も生徒にご指導頂いた当校の事
務方であります加藤初代監督、並びに
長谷川現監督、この何十年もの間現場
を維持、そして育てて頂きました本
当に感謝しております。おかげさまで専
門学校の全国大会へは9大会連続を含
む10大会に出場することができ、
1998年と2008年には全国3位
の成績を取ることができました。本
当にありがとうございます。これから
も全国優勝を目標にご指導の程よろし

くお願いいたします。そんな野球部も
再来年には創部20周年を迎えること
になります、今年のOB会では待望の「名
古屋ドームでのOB戦」実現へ向けて
の準備室を立ち上げたいと考えており
ます。そして20周年を良い形で実現で
きますよう皆様方の応援もお願いいた
します。これからも仲間を大切に、し
人を大切にして多くの卒業生が集まれ
る野球部OB会を開催し、それを継続
することによって航友会の発展に寄与
することが出来れば幸いと思えます。
今後も野球部OB会をよろしく願
いたします。そして野球部OB会の皆
様、これからもよろしく願
いたします、そして本
当にありがとうございます。



中日本航空専門学校 野球部 初代AERO GANGS



航友会 30 周年を迎えて



M7期 徳永信一
先ずは航友会の30周年おめでとうござい
ます。また、30周年に

向けて航友会の運営に関っていただき
ました事務局の皆様と各支部の委員の
皆様に心からお礼申し上げます。
数年前に関西航友会発足の折にお
声をかけていただき、身近に多くの先
輩、後輩諸氏がいらつしやることに感
動しました。以来、各方面でご活躍中
の航友会の皆さんとは業種を越えてお
付き合いさせて頂いております。多く
の仲間ができたこと大変嬉しく、航友
会に感謝しております。願わくば、こ
の人脈を頼りに50周年には若い世代の
皆様との交流がもっと増えていること
を期待しております。



M30期 武郷孝拓
航友会30周年おめ
でとうございます。卒
業生の一人として大変

嬉しく思います。振り返ってみると航
空整備士になるという夢に向かって仲
間と共に過ごした二年間はとても充実
していました。当時の友人とは今でも
親睦を深めています。一方で、卒業し
て早8年が経過し、お互い仕事や家庭
の事情で直接会う機会はめっきりと減
りました。先輩後輩の繋がりに至って
は皆無です。航友会活動を通じて卒業
生の結束に少しでも役立てば幸いです。



M35期 横山航太
この度、航友会30
周年記念号発刊おめで
とうございます。創刊

から現在に至るまでの、「航友会だよ
り」を読み返してみると中日本航専の
作り上げてきたさまざまな歴史や各地
域の支部における皆様の活動や活躍の
記事などが取り上げられ全国規模での
皆様の活躍を知る事ができOBとして
大変嬉しく思います。私自身航友会メ
ンバーの一員として又、中日本航専OB
として航友会の発展に努めていけれ
ばと思います。



S10期 土井新
30周年と聞くと、い
かにたくさんの恩師や
大勢の卒業生がいらつ
しやるか、改めて学校

の歴史を感じ、又自分も卒業生の一人
として航友会という皆様との繋がりが
大変うれしく思います。
現在空港におけるANA旅客・運
航システムの保守サービスを行って
おりますが、航空電子制御科の幅広い
授業科目のおかげで、近年のシステム
技術の発展にも理解・対応してくる事
ができたのだと、今実感しています。
今後益々の中日本航空専門学校
ご発展と、航友会の活動を、応援させ
て頂きたいと存じます。



S24期 黄霞
S24期の黄霞です。
中国からたった一人で
留学し日本に来まし

た。学校での生活は文化の違いや年齢
の違いなどもあり、初めは戸惑いの連
続でしたが、学校の先生、友達に暖か
く助けてもらい、すぐにとけ込めて、
今では一生の思い出として胸に刻まれ
ています。卒業して、今はアパレルの
会社で元気に勤務しています。友達も
色々なところで活躍していて、自分も
励まされます。中日本航空専門学校に
入って本当に良かったです。



E18期 国分俊介
この度、航友会殿
におかれましては、創
立30周年をお慶び申し

上げましたことを、心よりお慶び申し
上げます。
さて、私が本校を卒業して早四年
が経ちました。在学中、本校では人間
学の講義を通じて、人間としてどうあ
るべきかを学んだところが大きいと感
じております。今後も、まずは人間性
だということを意識して、よき技術者
を目指していきたいです。
末筆ながら、航友会殿ならびに本
校のますますのご発展を期待しており
ます。



E19期 藤田和宏
私は航空生産科で
2年間航空機の設計・
構造・組立・検査の知

識を学びました。現在、航空機エンジ
ンの品質保証業務に携わっています。
専門学校で直接品質保証という言葉
を耳にした記憶はありませんが、図面を
読み、組立時インターフェイスとなる
重要寸法に注意し、製品を検査します。
また客先に対応する為、英語も含め学
んだ多くが業務に関わっています。
今年で創立30周年おめでとうござ
います。今後益々の発展と飛躍を願っ
ています。



A8期 森 祐一
今現在では中部空港
の特殊車両等のメンテ
ナンス会社で働いてい

ます。エアポートサービス科では、車
両運転実習が一番の思い出になってい
ます。タグやハイリフトローダー等、
初めて乗る車両ばかりで緊張や戸惑い
でいっぱいでした。回を重ねることに
運転する楽しさや、難しさがわかり、
充実した楽しい時間を過ごしました。
また、学校では全国から仲間が集まっ
っており、楽しい学校生活の一因にも
なっていました。



A8期 大澤美奈
私は今セントレア
でCSSという会社で
働いており、客室サー
ビス課で機用品を担当しています。機
用品作業というのは飛行機が着陸して
次のフライトに向けて機内で使用され
るものを搭載したり取り下ろしをし
たりしています。空港で働いていると
会社は違っても同じクラスの子や隣の
クラスだった子が手を振ってくれたり
すると空港に働いていてよかったなあ
と思います。これから中部地区を盛り
上げていきますのでよろしくお願
いします。

航友会では、卒業生の皆さんへの情
報提供とコミュニティの場として、
ホームページを開設しております。
右記アドレスを入力していただ
か、「中日本航空専門学校 同窓会」
などと検索していただければ、アクセ
スできます。
トップ・ページでは、イベント等の
案内などのトビックスを、「航友会と
は」では、会則や各支部の規約などを
掲載しております。
また、皆さんのコミュニティの場と
して、「航友会コミュニティ」をはじ
めとして、各支部の方々の「支部コミュ
ニティ」、ラグビー部、野球部等の方々
の「部活コミュニティ」、各同期や各
グループ等の方々の「同期・グループ・
コミュニティ」を設けておりますので、
大いに活用していただき卒業生の輪を
広げていただければと思います。



航友会ホームページ
<http://www.cna-koyukai.org/>



ホームページの紹介

その他にも、「住所変更」の手続き
や「就職情報」の掲載、「各種証明書
（卒業証明書、成績証明書）の交付に
ついて」や入学金（全額・半額）免除
の特典が得られる「卒業生子女奨学制
度」「同窓生推薦奨学制度」の申請要
領等を確認することができます。
多くの方のアクセスをお待ちして
おります。

航友会名簿委員会からのお願い

個人情報保護法が厳しく言われ
る昨今、なかなか積極的に会員皆
様の住所調査も行いにくい状況と
なりました。現在会員数が1万名
を超えようとしておりますが、残
念ながら住所判明率が年々減少し
ていきます。
会員の皆様へ直接連絡を取らせ
ていただく場合、この住所により
発送業務をさせて頂いておりま
す。今後の航友会との連絡のため
にも転居された場合は航友会ホー
ムページにて住所変更手続きをし
ていただきますようお願いいたし
ます。

編集後記

今回の「航友会だより30周年特別号」
は今までのものと大きな違いが一つあ
ります。事務局の会報委員会を中心と
なって作成していたものが、各支部・
グループ航友会が中心となって記事を
書いていただいていることです。卒業
生の方々の参加型の航友会活動がス
タートした証であると思われれます。各
支部長はじめ原稿作成にご協力下さ
いました方々に厚く御礼申し上げます。
これから航友会活動が益々活発に
なっていく事を期待したいと思います。

最後に、今回の30周年記念式典に多
くの卒業生の方が参加していただき、
学生時代の思い出話を語り合いた
か。皆さんの多くの参加をお待ちし
ております。

航友会事務局一同

追伸

現在、「卒業生子女奨学制度」「同窓
生推薦奨学制度」と卒業生の方の推薦
により、母校の発展に優秀な人材をご
紹介して頂く入試制度があります。詳
しくは本校のHPをご覧ください。